

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/7/30作成 (株)新出光

【概況】<変異株の感染拡大続くも、需要回復期待根強く>

- 23日、より感染力の強い「デルタ株」の世界的な広がりを懸念し、原油相場も一時は7.5%急落していましたが、その後は根強い需給引き締め期待を支えに買い戻しが入ったことで、前日までに下げ幅を一掃しており、前週比では0.36%高となっています。
- 26日、世界的な新型コロナウイルス変異株の感染拡大や中国の洪水で燃料需要が鈍化するとの懸念が台頭したことや、中国政府による製油所への取り締りにより、今年の石油輸入の伸びが約20年ぶりの低水準に落ち込む可能性があることが下げ要因になりました。
- 27日、デルタ株拡散に伴う新規感染者が日本や米国、スペインなど世界各地で増加しており、各国で新たなロックダウンなどの感染拡大防止策が強化されれば、経済の正常化が一段と遅れるとの見方が相場の重しとなりました。ただ、週間石油在庫統計で原油やガソリン在庫がいずれも減少すると予想されていることは、相場の支援材料となりました。
- 28日、米エネルギー情報局(EIA)が午前公表した週報によると、米国内原油在庫は前週比410万バレル減の4億3560万バレルでした。これは2020年1月31日時点以来の低水準で、市場予想の290万バレル減を上回る取り崩しとなりました。また、ガソリンの在庫も減っていたためにエネルギー需要の底堅さを示す統計と受け止められたようです。
- 29日、前日に発表された石油製品在庫の減少が引き続き材料視され底堅い展開となっています。また新型コロナウイルス変異株の感染拡大懸念が広がる中、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明で、米経済の回復は引き続き順調との認識が示されたことも支援材料となりました。

7月30日 17:00現在 WTI原油 73.42ドル 為替 1ドル 109.50円

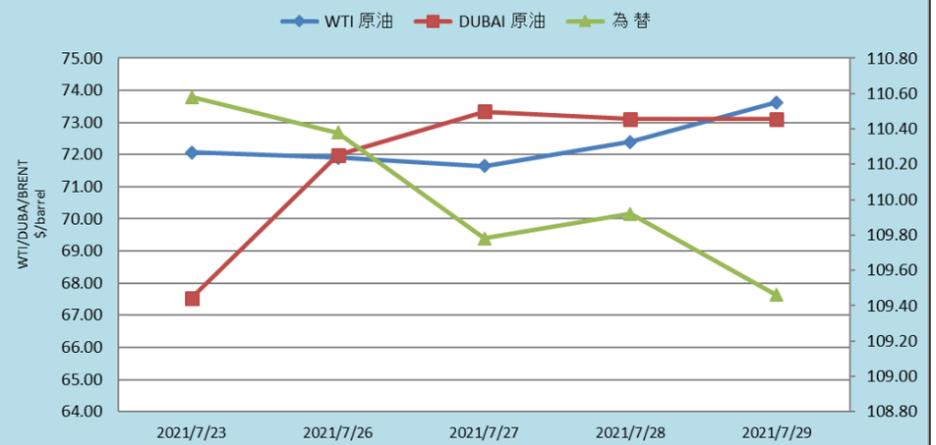
国内石油製品在庫 7月24日時点

単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位 円



次回元売変動予測

8/5～ 元売変動予測

ガソリン	➡	+1.0～+1.5
灯油	➡	+1.0～+1.5
軽油	➡	+1.0～+1.5
A重油	➡	+1.0～+1.5
LSA	➡	+1.0～+1.5

【製品卸価格】<月内終了、一旦リセット>

《今週》今週の元売り仕切り改定はENEOS・コスモ「-1.0円」、出光興産「-0.5円」の値下げ改定でした。以前の改定のズレはこれで揃った形となります。改定前までは月間リンク玉での販売を積極的に行っていたディーラーも改定後は月内の販売に目途を付けたために、販売停止や値上げを行っており、買い手としてはリセット値上げ前の仕入れを求める動きが窺えました。現在ではすでに月内の販売は終わり、関心は8月の市況へと移っているようです。

《7月31日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「+1.0～+1.5円」の値上げ予測です。月初は一旦リセットしますが、次回改定の上げ前の仮需を囲い込もうと動くディーラーも出てきそうです。8月はお盆がありますが、国内での感染再拡大が進んでいる中で人の移動は引き続き制限され、工場の稼働も7日から停止するところもあるなど、需要の伸び悩みに直面しそうです。その為、第一週から積極販売に臨むことも考えられます。8月にはENEOSの鹿島や大分、昭和四日市、太陽菊間など定修やトラブルにより止まっていた製油所の再稼働が進むことも市況の悪化に影響を与える可能性があります。

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<洋上風力を活用した水素製造へ>

(株)グリーンパワーインベストメントと北海道電力(株)を含む6社で洋上風力につくった電力による水素製造を進め、2023年度にも北海道で洋上風力を稼働させ水素を製造し、企業に販売をしていく予定です。再生可能エネルギー由来の電気で作った水素は、製造時にCO2が排出されないためにグリーン水素と呼ばれています。この洋上風力によって得た電力によりつくられる水素の年間製造量は最大で約550トンとなり、水素自動車10万台強を満タンにできる規模となります。ただ、海外に比べ、国内での水素の製造はコストが高く課題も多いようです。また、水素製造には大手ゼネコンの(株)大林組も大分県九重町で、地熱発電による電力で水を電気分解して水素をつくる、水素製造実証プラントの運転を今月始めています。